

## 農学研究科

### 教育目標

農学研究科は、人の健全な生活の基盤である農林業、食、環境、生命科学などの分野に関する高度な専門教育を行ない、農学が取り扱う分野における高度な研究・開発能力を備え、地域に貢献できる人材、さらには世界で活躍できる人材を養成することを教育目標とする。

### アドミッションポリシー

農学研究科では、人の健全な生活の基盤である食、環境、生命科学などの分野に関して基本概念と知識を修得しており、また高い関心を持つ以下のような学生を求めている。

- (1) 農学が取り扱う学問領域の中の専門分野について十分な学力を有している人
- (2) 農学が取り扱う学問領域の中の専門分野に関する語学（特に、英語）について十分な能力を有している人
- (3) 農学が取り扱う学問領域の中の特定の研究課題について取り組む意欲のある人

#### (社会人特別選抜用)

所定の出願資格を有し、教育・研究機関、官公庁、企業等で農学が取り扱う研究分野に関連した現業に従事しており（過去に従事したことがある者を含む）、専門領域における研究課題に取り組む意欲のある人

#### (再チャレンジ支援プログラム社会人特別選抜用)

所定の出願資格を有し、教育・研究機関、官公庁、企業等で焼酎学、森林管理学、地域資源環境学に関連した現業に従事しており（過去に従事したことがある者を含む）、専門領域におけるスキルアップに取り組む意欲のある人

### ディプロマポリシー

修士課程にあつては、所定の年限在学し、所定の単位数を修得し論文審査に合格した者に、修士の学位を与える。特に成績が優秀な者に対しては、所定の手続きにより、早期修了を認め、修士の学位を与える。

修士の学位を与えるにあたって、以下の点に到達していることを目安とする。

- (1) 農林業および食品・生命科学関連産業に関する学問分野において幅広い高度な学術的知識や技術を身につけている。

(2) 農林業および食品・生命科学関連産業の現場において、専門分野に関する高度な技術や方法論を有し、問題点を十分に理解して解決できる。

(3) 農学に関連した分野の学問において、課題を解決するために、研究を遂行し、修士論文としてまとめることができる。

## カリキュラムポリシー

教育目標を達成させるため、農学に関連した分野の学問についてより高度な知識や技術を習得させるとともに、問題解決に向けて自ら企画・立案できる能力を養うための教育を行う。その概要は以下の通りである。

(1) 専門分野についての高度な知識を習得させるとともに専門的な実験や演習を課して技術や方法論を習得させる科目を配置する。

(2) 修士論文テーマを企画・立案し、指導教員と討議しつつ研究を遂行し、成果を取り纏める科目を配置する。

## 生物生産学専攻

### 教育目標

生物生産学専攻では、農産物や家畜の生産、管理、流通に指導的立場で携わり、また関連の分野の研究を自立して遂行できる専門職業人・研究者等、国内外で活躍できる高資質の人材の育成を教育目標とする。

## アドミッションポリシー

(1) 学部教育で培われた語学力、専門的知識・技術を備えている人

(2) 栽培、飼育、実験もしくは調査に関する科学的探求心や知的好奇心を持つ人

(3) 農業や食料生産及び農産物流通に関心を持ち、問題解決に取り組める人

(4) 農村地域や農村社会に関心を持ち、問題提起ができる人

(5) 農産物や家畜の生産に関する新技術やバイオテクノロジーの修得に関心を持ち、さらなる応用・展開に取り組める人

## ディプロマポリシー

(1) 農作物・園芸作物の栽培や家畜の管理に関する高度な専門的知識と技術を有し、指導的立場で問題解決できる。

(2) 植物や動物、微生物の生命現象に関する高度な専門知識と解析技術を有し、自ら生命現象解明の研究を遂行できる。

- (3) 農産物の流通や農村の実態を十分に理解して問題提起ができるとともに指導的立場に立って行動できる。

### カリキュラムポリシー

教育目標を達成させるために、農産物や家畜の生産、管理、流通に関連した分野の学問についてより高度な知識と技術を習得させるとともに問題解決に向けて自ら企画・立案できる能力を養うための教育を行う。その概要は以下の通りである。

- (1) 1年次は専門分野についてのより高度な知識を習得させるとともにより専門的な実験、演習を課して技術を習得させる科目を配置する。
- (2) 修士論文テーマを企画・立案し、「特別研究」として1年次から研究を開始する。
- (3) 2年次には修士論文テーマについて研究を遂行し、研究成果として結果を取りまとめて発表する科目を配置する。

### 生物資源化学専攻

#### 教育目標

生物資源化学専攻は、動植物・微生物の構成成分とその機能、食品の製造・栄養と機能、農産物の生産・保存・利用、土壌とその機能などに関する分野で活躍できる専門職業人や研究者の育成を教育目標とする。

#### アドミッションポリシー

- (1) 生命現象、バイオテクノロジー、食品に関する十分な学力を備えている人
- (2) 生命現象、バイオテクノロジー、食品に関する特定の研究課題に取り組む意欲のある人
- (3) 動植物・微生物の生命現象や食料、食品、発酵に高い関心を持つ人
- (4) バイオテクノロジーの新技术に高い関心を持つ人

#### ディプロマポリシー

- (1) 生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学および発酵学に関連した分野の学問において、より高度な知識と技術を有し、自ら研究方針を企画・立案することができる。
- (2) 生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学および発酵学に関連した産業において、問題点を十分に理解して問題提起ができるとともに、指導的立場に立って問題解決能力を示すことができる。

### カリキュラムポリシー

教育目標を達成させるために、生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学および発酵学に関連した分野の学問において、より高度な知識と技術を習得させるとともに問題解決に向けて自ら企画・立案できる能力を養うための教育を行う。その概要は以下の通りである。

- (1) 1年次は専門分野について、より高度な知識を習得させるとともに、より先端的な特別演習および特別実験を課して技術を習得させる科目を配置する。
- (2) 修士論文テーマを企画・立案し、指導教員と討議しつつ「特別研究」として1年次から研究を開始する。
- (3) 2年次には修士論文テーマについての研究を成果として取りまとめて発表する科目を配置する。

## 生物環境学専攻

### 教育目標

生物環境学専攻は、森林の利用と保全、人間を取り巻く自然・生活環境の改善と維持、ならびに農業生産基盤と農産物の生産・加工・保存技術に携わる高度専門技術者や研究者を養成することを教育目標とする。

### アドミッションポリシー

- (1) 森林生態系の機能と構造ならびに森林資源の管理や利用に関する興味と研究への意欲を持つ人
- (2) 木質資源の循環型利用と高度利用、居住空間の環境改善、森林による水土保全、土砂災害防止等に関心のある人
- (3) バイオマス資源の利活用、食品の安全・品質の確保、環境や生体情報の解析等に意欲のある人
- (4) 水資源の利用管理と水環境の保全、農地の保全と管理に興味があり研究への熱意をもつ人

### ディプロマポリシー

- (1) 生物環境学に関わる農林業分野において、高度な専門的知識や技術を有し、問題点を十分に理解して解決できる。
- (2) 生物環境学に関わる農林業分野の課題を解決するために、研究を遂行し、修士論文としてまとめることができる。

### カリキュラムポリシー

教育目標を達成させるために、森林の利用と保全、地域防災と木材利用、人間を取り巻く自然・生活環境の改善と維持、ならびに農業生産基盤と農産物の生産・加工・保存技術に関連した分野の学問について、高度な知識と技術を習得させるとともに、問題解決に向けて自ら企画・立案できる能力を養うための教育を行う。その概要は以下の通りである。

- (1) 専門分野についての高度な知識を習得させるとともに、専門的な演習等を通じて技術や方法論を習得させる科目を配置する。
- (2) 研究課題を企画・立案し、指導教員と討議しつつ研究を遂行し、成果を修士論文として取りまとめる科目を配置する。